

第三十七回北方領土の返還を求める都民大会 会長挨拶

平成三十一年一月三十一日

- ただいまご紹介をいただきました谷茂岡でございます。
第三十七回北方領土の返還を求める都民大会の開催にあたりまして、一言、ご挨拶を申し上げます。

本日は、お寒い中、お忙しいところ、このように大勢の皆様にご出席いただきまして、まことにありがとうございます。

- また、本年も多数のご来賓をお迎えいたしております。
東京都議会、内閣府、外務省、並びに、北方領土問題対策協会からお出でいただいております。ご支援に対しまして心より御礼を申し上げます。

- 本日の講演会では、名越健郎（なごしけんろう）様から、「重大局面に入った北方領土問題」について御講演を頂くことになっております。

名越様は、東京外国語大学ロシア語科卒業後、時事通信社に入社され、モスクワ支局勤務の御経験もあります。
平成二十二年と二十四年には、北方四島交流訪問事業で国後島や択捉島にも訪問されたと伺っております。本日の御講演でも、北方領土問題の興味深いお話が伺えるものと期待しております。

- この都民会議も昭和五十八年の設立以来、今年で三十六年目になります。
この間、私どもは、日本国政府とソ連そしてロシア政府との交渉を見守りながら活動をしてまいりましたが、残念ながら北方領土返還という私たちの悲願はいまだ果たされておられません。

一日も早く日本へ帰ってくることを、そして日露両国の国民同士が、本当に胸襟を開いて信頼関係を持って交流できる日が必ず来ることを信じております。私たちの運動もそのように進めていかなければならないと、強く感じております。

○島を取り戻すまで、私たちは決してあきらめることなく、粘り強く、そして希望を持って、返還要求運動を推し進めてまいりたいと思っております。

どうぞ、皆様方にも引き続き力強いご支援をお願い申し上げまして、簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。